

■小藤文次郎 地質学者。日本の地質学や地形学の揺籃期に活躍し貢献，多くの学生を育てた。

ことぶんじろう

松下村塾・・・1856＝ 石見国津和野に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 4歳：

薩摩藩士密航1865＝ 9歳：

明治維新・・・1868＝12歳：

初の日刊新聞1870＝14歳：同藩の貢進生として選ばれて上京遊学。

明治6年政変 1873＝17歳：

佐賀の乱・・・1874＝18歳：

沖縄県編入・1879＝23歳：_東京大学理学部地質学科最初の，ただ1人の卒業生として，同学部講師となる。

・・・1880＝24歳：_命によりドイツに留学，

明治14年政変1881＝25歳：

_同国で数年前に学んだ原田豊吉につづき，地質・岩石鉱物・古生物学などを学ぶ2人目の日本人となる。

岩倉具視没・1883＝27歳：

秩父事件・・・1884＝28歳：_帰国し，

帝国大学始・1886＝30歳：_帝国大学理科大学教授となる。

国民之友始・1887＝31歳：*[東洋学芸雑誌]4に「本邦地帯構造と地磁気に関する顕象」を発表，地球物理学関係その他の境界領域との協
力に端緒をひらく。

帝国憲法発布1889＝33歳：

大津事件・・・1891＝35歳：

*この年起きた濃尾大地震の研究における根尾谷断層の記述と解明とは世界的に有名であり，この地震を機
に，菊池大鷲・田中館愛橘・長岡半太郎らと官制による震災予防調査会を創設，日本における地震研究の進
展の基盤をつくる。

大本教・・・1892＝36歳：

郡司千島探検1893＝37歳：_日本地質学会創設にも尽力。

日清戦争始・1894＝38歳：

子規句歌革新1898＝42歳：

*「崑崙と日本崑崙」などで，近年あらためて問題となっている日本島弧について，ナウマン・リヒトホー
フェンの学説を実地に検して論争，

田中正造直訴1901＝45歳：

その他，「日本の火山」「日本の火成岩の研究」「秩父結晶片岩系の研究」「阿武隈高原の地質学的研究」などによ
り，かねて箕作院甫によってわが国に紹介された地球に関する西欧の科学を，時空そのものと物質の運動お
よび変化を明確に意識しての日本の自然科学領域として育てた。

日露戦争終・1905＝49歳：

韓国併合・・・1910＝54歳：

明治天皇没・1912＝56歳：

ベルリン条約・1919＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝65歳：*退任して名誉教授となり，その後も長く同大学にあつて後進の指導育成，研究，その他に尽くし，

関東大震災・1923＝67歳：

_関東大地震に際しても震災予防調査会の長老の1人として尽力，

_学術研究会議の地質学・地理学部長ともなり，

共産党事件・1928＝72歳：

満州事変・・・1931＝75歳：

芥川直木賞始1935＝79歳：_没した。